

# 2020年度 大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義 (オンライン開催)

普段の授業にはない希少な機会ですので、是非皆様のご参加をお待ちしております！

日時：2021年2月24(水)・25日(木) オンライン(Zoom)開催  
(10:15~ Zoom入室 / 10:20~ 開会 / 15:10~ オンライン懇親会 ※25日のみ)

連絡先：[d.b.u.post.graduated.e.l.class@gmail.com](mailto:d.b.u.post.graduated.e.l.class@gmail.com)

参加費：無料

参加ご希望の方は以下のURLにて必要事項をご記入の上、**2月22日(月)**までにご予約ください。

<https://forms.gle/THjZA6jE76dvexir5>

## 2月24日(水) 10:30~12:00

カズオ・イシグロ『私を離さないで』を読む

鳥取大学 地域学部 国際地域文化コース 准教授  
長柄 裕美

毎作予想を裏切る斬新なストーリーで読者を驚かせ続けているカズオ・イシグロだが、なかでも『わたしを離さないで』ほど強烈な読後感を残す作品はないだろう。本講義では、初期三部作後に見られる表現上の変化を確認した上で、特に<子ども><言葉><粘着性>等のキーワードを中心に、『わたし』に集約されるイシグロ作品の諸テーマについて論じる。皆様の活発な議論のための話題提供となれば幸いです。

## 2月24日(水) 13:30~15:00

明治の女性が見たイギリスの女子教育—  
津田梅子・安井てつ・下田歌子の  
視察・留学を通して

津田塾大学 言語文化研究所 特任研究員  
西九州大学 名誉教授  
香川 せつ子

19世紀末から20世紀初頭のイギリスは、女性が教育、職業、政治、福祉の分野で活躍を始めた時代である。少女たちは近代的な学校で勉学やスポーツに励み、女性の大学進学が盛んとなった。この頃、女子教育の視察や留学を目的に渡英した日本の女性がいる。下田歌子、安井てつ、津田梅子であり、三人は帰国後に理想の教育をめざして新しい学校を設立した。彼女らはイギリス女子教育から何を発見し、何を学んだのだろうか、史料を通して読み解く。

## 2月25日(木) 10:30~12:00

英国ファンタジーの世界—  
『ハリー・ポッター』シリーズを中心に

明治学院大学 文学部英文学科 教授  
安藤 聡

『アリス』、『ピーター・パン』、『ホビット』、『ナルニア』を始めとして、英国には児童文学、ファンタジーの名作が非常に多い。英国のファンタジーには、非現実的なファンタジーの世界に現実世界の詳細な描写を持ち込んで独自の効果を挙げている作品が散見される。このようなファンタジーの世界の諸相を『ハリー・ポッター』シリーズを概観しながら考察したい。

## 2月25日(木) 13:30~15:00

ヴァージニア・ウルフの描く女性と戦争—  
The Years (1937)を中心に

青山学院大学 文学部 英米文学科 教授  
麻生 えりか

ウルフ後期の小説*The Years*における女性の表象を通して、女性の自律による平和を構想した1930年代のウルフのジレンマと希望について考える。戦間期イギリスのフェミニズム運動や政治の状況を視野に入れつつ、ウルフのエッセイ*A Room of One's Own*を出発点とし、“Professions for Women”で強調された「女性の身体の経験を描くこと」が、反戦のフェミニスト・エッセイ*Three Guineas* や“Thoughts on Peace in an Air Raid”で希求される平和や自由とつながっていくさまを、難産の末に出版された*The Years*に読み取りたい。